

あそびのまなび

8月のテーマ

長浜市児童発達支援センター・こども療育センター

スライムあそび



療育での遊びの中から、今回は「スライムあそび」を紹介します。

スライムは、PVAのり（液体洗濯のり）、ホウ砂、食用色素（食紅）、水で簡単に作ることができます。

療育で用いるスライムは、こどもたちの様子や遊びの目的に合わせて使用するため、PVAのりと水の量を調整しながら、スライムの硬さやベタベタの程度を変えています。こどもたちのグループによっては、手順に合わせてこども自身で作ることもあります。

スライムでの遊びを通して、以下のようなことをねらっています。

感覚・感触を味わう

○視覚

色、透明感、混ぜた時の色の変化、ドロドロした様子、伸びる・広がる等の変化する様子（硬さによって異なります）

○触覚

冷たさ（温度）、感触（ぬるぬる、ベトベト）、硬さ（柔らかさ、硬さ）、混ぜる時に生じる抵抗感、手や足で触れた時の感覚。スライムの中にビー玉などの硬いものを入れて感触の違いに気づく。

手指等の体を使う経験する

○手指を使って、ちぎったり、丸めたりする。

○伸ばす時に、切れないよう手指の力や動きを調整する。

○包丁で切る、棒で伸ばす、型抜きをする、カップに入れる混ぜるなどの道具を使う経験。

○ストローで吹いて膨らませる時の息を吐く力を調整する。

自分で作る経験・達成感を味わう

○水やPVAのりの量を計り、作り方の手順書を確認しながら、自分で作る経験をする。

見立て・イメージを共有する

○大人が作ったものを見せて、「これはゼリー」「へび作ったよ」と知らせたり、こどもが作ったものに対して、「これは何を作ったの？」とたずねたりしながら、お互いのイメージを共有する。

対人・コミュニケーションの経験をする

- 要求を相手に伝える。「○○作って」「（手についたスライムを）取って」、「～ちゃん、かえっこしよ」等
- 作ったものを他者に見せ、「見て見て！」と認めてもらおうとする。
- スライムで遊ぶ際、道具の貸し借りをする。
- 作ったものでやり取りを楽しむ。【例：お店屋さんごっこ「いらっしゃい」「ありがとう」「○○円です」】



柔らかいスライムが手につくのが苦手なこどもは、ほかのこどもが遊ぶ様子を見たり、道具を使ったり、指先で少し触れたりするところから始めます。いろいろな感触が楽しめるこどもたちは、手や足を使いながらダイナミックに遊びます。スライムは、こどもの色々な感覚を刺激し、色々な遊びに展開できる、療育においてとても重要な遊びの素材です！！